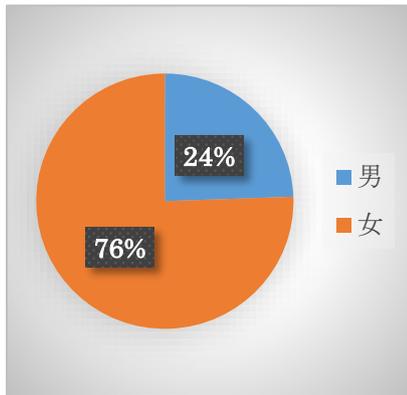


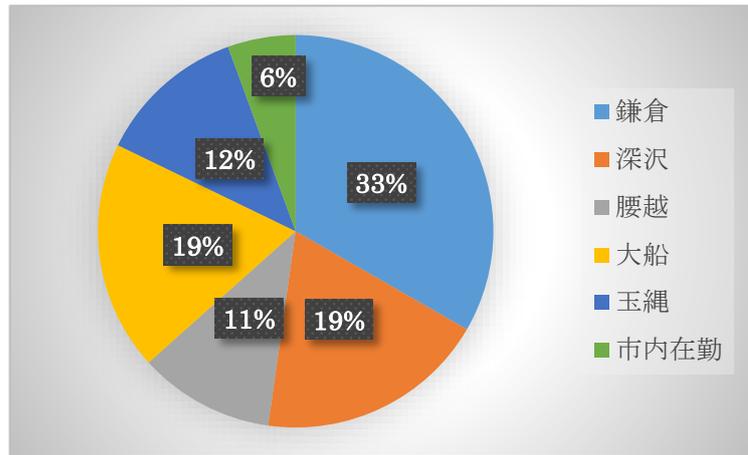
民生委員児童委員アンケート結果（抜粋）

回答人数：90名

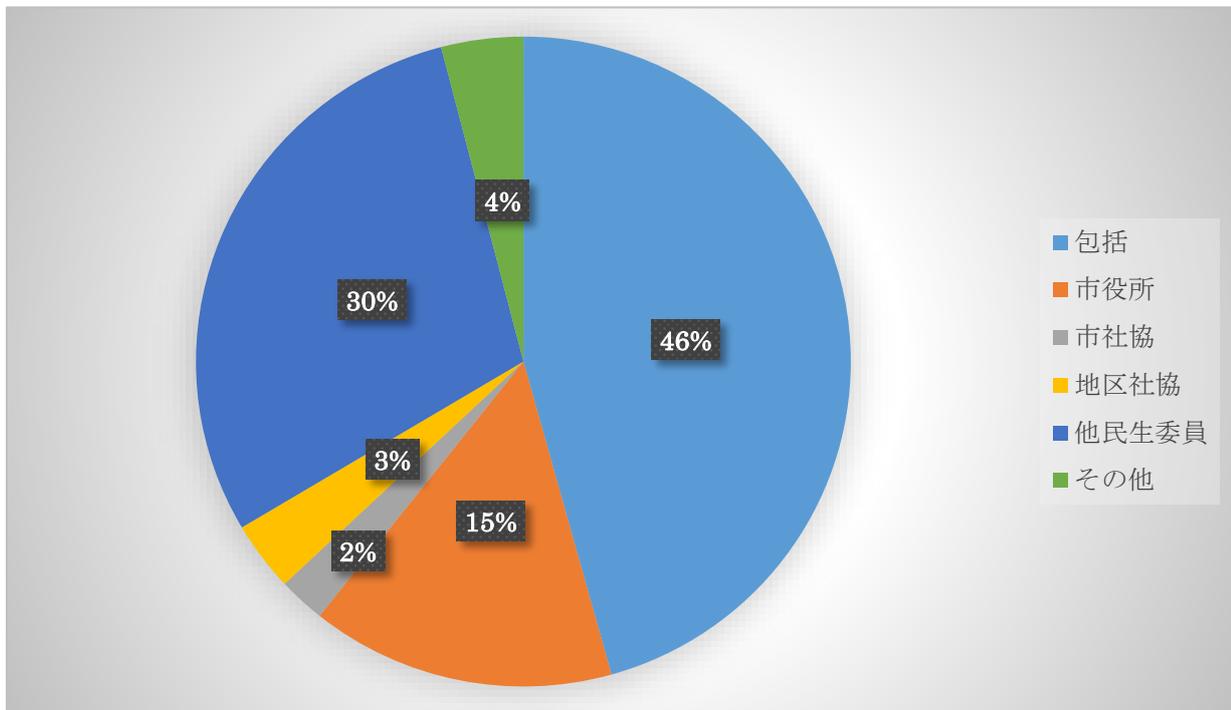
【性別】



【地区】



【相談先】



【設問④】 相談しても問題が解決しなかった場合、どの様なことが原因だと思いますか

- ・ 近隣住民の協力が得られない
- ・ 精神疾患（異常）の方の近隣トラブルは、解決しないケースがありました。これから増える傾向があるように思われるので、社協・保健所・市役所等の連携。行政が専門家の要請、専門部署の設立
- ・ 民生委員、地域包括支援センター、市役所等が連絡を密にとることができていない事
- ・ 情報が取り切れていない。御本人が関わられることを拒否する
- ・ 地域包括支援センター、市役所、福祉協議会、民生委員それぞれが同じ問題を解決しようとする時、タイムラグがあり、把握している内容にずれがある
- ・ 自治会と連携したいが個人情報がかかるとひっかかる
- ・ 市役所に相談をした場合（近所の方から心配の声が上がった人について）、まずその方が市の対象者として関わっているかを知りたいが、それぞれの課に聞くことになり大変。一括して調べていただけるようなシステムにして欲しい。個人情報だから難しいとは思いますが、その人の命、財産にかかわる事であれば開示すべきだと考える
- ・ 解決のネックになっているのは、往々にして行政等の担当が縦割りで細分化していることが挙げられる。

【設問⑤】 問題を解決するために地域でできることはありますか

- ・ 警察の方や、保健所の方など話ができる方に手をお借りする
- ・ 地域は手を差し伸べようとしても、それを拒む人はいる。いったんその思いを引き取って、離れて見守ることにして、こちらから無理強いほしない。ご自身の状況が変われば、心情にも変化が表れる。そしてこちらとの接点生まれる。時には結果を急がないことも大切
- ・ ご近所同士のコミュニケーションが取れること
- ・ 住民一町内会一民生委員が何でも話ができる機会を設ける場所を作る
- ・ ささえ合いの拠点となるハード面での整備が（横浜市のケアプラザ）不十分であると思う。住民（老～幼）すべてが常につながり支え合う街づくり、その方法等拠点、中心となる人、運営の為のノウハウ費用いろいろ。
- ・ 個人情報の問題を解決しないと、地域のできることに限界がある
- ・ 日頃から地域の人たちと良い関係を持ち多くの人が集まる地域の行事等に積極的に参加をしてもらい、地域に溶け込むことが大事だと思う
- ・ 「問題がある」「悩みがある」ということをまわりに知ってもらうこと

【設問⑥】 活動していて困りごとには何かありますか

- ・ひとり暮らし登録者以外の高齢者の情報の把握
- ・地域個別ケア会議に出席しても、守秘義務があるためにケアマネから詳しい情報が得られないこと
- ・地域包括、市役所、民生委員の連携、情報の共有が出来ないこと
- ・鎌倉市は個人情報への壁が厚い。地域福祉を推進するなら、個人情報は開示すべきと思われます
- ・マンション住民のことが分かりづらい
- ・民生委員も高齢だが、後を引き継ぐ人がなかなかいない。高齢者の自宅に訪問する際、一人でなく複数だといいが
- ・心を開かず、引きこもり状態のケース
- ・活動拠点がない

【設問⑦】 つながりさえあうまちを目指して何が必要になるか自由に記載してください

- ・普段から隣近所の方々との挨拶やコミュニケーションをとること
- ・手助けする意思（志）の有る人と助けが必要な人を結びつける仕組み
- ・住民が集まれる場所が近くにあること
- ・民協、社協、互いに知り合う事からなんでも相談し合える関係をめげずに作っていく
- ・みんながお互い様という気持ちになれるといい。元気な人も、そうでない人も気軽に集えるイベントがあると、外に出てもらいやすい
- ・全ての行政の制度やサービスがどうなっているかを自治体や民生委員が質問できる窓口があると良いと思う
- ・ボランティア協力者を探す、養成する施策が必要。そしてボランティアの方々の相談、支援、サポートする仕組みが必要と思います
- ・総合的、包括的に受けとめる窓口が必要